

2018年3月福林 徹さんを偲ぶつどい

当会の共同代表の一人福林徹さんは、2017年8月31日病気のため逝去されました。これまでの活動に感謝し、ご冥福をお祈り致します。

当会のみならず関西方面の複数の団体に活躍されていた福林さんのために、3月21日（水）京都で「福林徹さんを偲ぶつどい」が催され、P研から笹本など6人が参加しました。主催は「戦争遺跡に平和を学ぶ京都の会」「中国人戦争被害者の要求を支える京都の会」「京都歴史教育者協議会」の3団体で、会場の「ひと・まち交流館」には定員を超える70人以上の参加者がありました。

生前の元気な福林さんの姿を映すスライド上映を挟んで、計10数人の方々が福林さんの思い出を語りました。



お元気なころの福林さん（後列右から2人目）

それぞれの方のお話からは、P研の私たちは知らない福林さんの、多彩で精力的な活動ぶりが伺われ、圧倒される思いでした。同時に福林さん独特のあのパーソナリティもユーモラスに紹介され、思わず噴き出すこともありました。京都3団体の共同編集で出された追悼文集は「ラストエンペラーと呼ばれた男」というタイトルでした。そう呼ばれた理由は、フィリピンやベトナム、中国などでの現地見学で、常に集合時間の最後にひょっこり姿を現したからだそうです。



P研代表としてスピーチする笹本



兄の思い出を語る満さん

翌22日（木）は、弟さんのご厚意で、亀岡市の福林さんのご自宅を6人で訪問し、膨大な資料の数々を見せていただきました。閑静な住宅地の一戸建てでしたが、全ての部屋が本や資料で埋め尽くされていました。その中からP研の研究に関係のありそうなものをお借りし、段ボール箱に入れて、東京の麻布台セミナーハウス宛てに発送しました。P研の誰もが利用できるように整理して目録を作り、今後の調査研究に役立てたいと思います。

（笹本妙子）